昭和五十五年五月

蟹江町歴史民俗資料館

年報

第一冊

蟹江むかし物語……小杉　正（1）
須成天王まつり……鷲野正昭（22）
海東郡須成村戸長役場の兵事文書について……長尾英彦（33）
蟹江のむかし（その一）……橋本雅司（59）
書道史年表と私……飯田棲山（62）

蟹江むかし物語

小杉　正

一、はじめに

蟹江町西之森の字名に「源氏島」がある。この名は、平治の乱（一一五九年）に敗れた源義朝が、知多の内海に渡る時、ここに立ち寄ったことにちなむものという。このことを史実と見る人とそれに疑いをもつ人とがある。

国の歴史に比べて、郷土史はどこでも歴史資料が少ない場合が多く、伝説や古老の話などが大きな影響をもつ。また、資料も見方や取り上げ方によって史実と相違したものになる場合も考えられる。

蟹江町のような水郷地帯では、古い資料は度々の洪水で流されたり、水浸しになり朽ちたり捨てられたりすることが多かったのであろうし、地形と川の流れも幾多の変遷を経て来たであろう。地形が変わったり、住む人々や支配者が代わった場合、時には地名も変わったこともあったであろう。

この地名については、蟹江町史の「町のおこり」でいろいろ検討されているので、再読されたい。

さて、このように乏しい資料を元に、史実に迫ろうとする場合、どうしたらよいだろうか。たとえば「源氏島」について言えば、

一、義朝は平治の乱に敗れて京都を脱出。（史実）

二、源氏島（伝説）

三、知多郡美浜町で横死。（史実）

今、一応、史実・伝説としたが、このような資料から実証されることだけを信じ、史実だけしか語らないのが、学者や研究者のとるべき態度であろう。が、私はこの三点を結び、その点と点の必然性を考慮して、その間を単なる線ではなくて、その時代に生きた人間がどうしてもその線をたどらねばならなかった姿をえがきたいのである。そのためには、その線の間から、少しでも関連のあるものなら、どんな伝説でも、ほんの一片・一行の資料でも、血まなこになって探し求めながら歩き、古文書も読みあさる。そうしているうちに、きっと、こうであっ

須成天王まつり

鷲野正昭

須成天王まつり行事表
須成について
須成神社のこと
須成天王まつりのいわれ
須成天王まつりの諸役
須成天王まつりの行事（解説）
一、稚児定め
二、宿入り
三、多度神社参拝
四、舟洗い、ちまき、鳥の子造り（神葭刈準備）
五、神葭刈
六、大注連起し、舟からみ
七、人形飾り、花つけ、稽古上げ
八、神葭揃え
九、コーリかき
十、天王詣り
十一、宵祭
十二、山起し
十三、朝祭
十四、山おろし
十五、神葭流し
十六、棚上り
十七、中湯立て
十八、棚おろし（おみだれ）